



古墳のはなし （中野富士山古墳・星神社古墳・梵天山古墳）

常陸太田市西南部における古墳と遺跡分布



中野富士山古墳 なかのふじやまこふん 市指定文化財（平成 29 年 5 月 25 日指定）

基本データ 住所：常陸太田市中野町 511

18 日(土)のみ

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	×	×	なし

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（中野富士山古墳）】多くの方々に愛される古墳を紹介します！



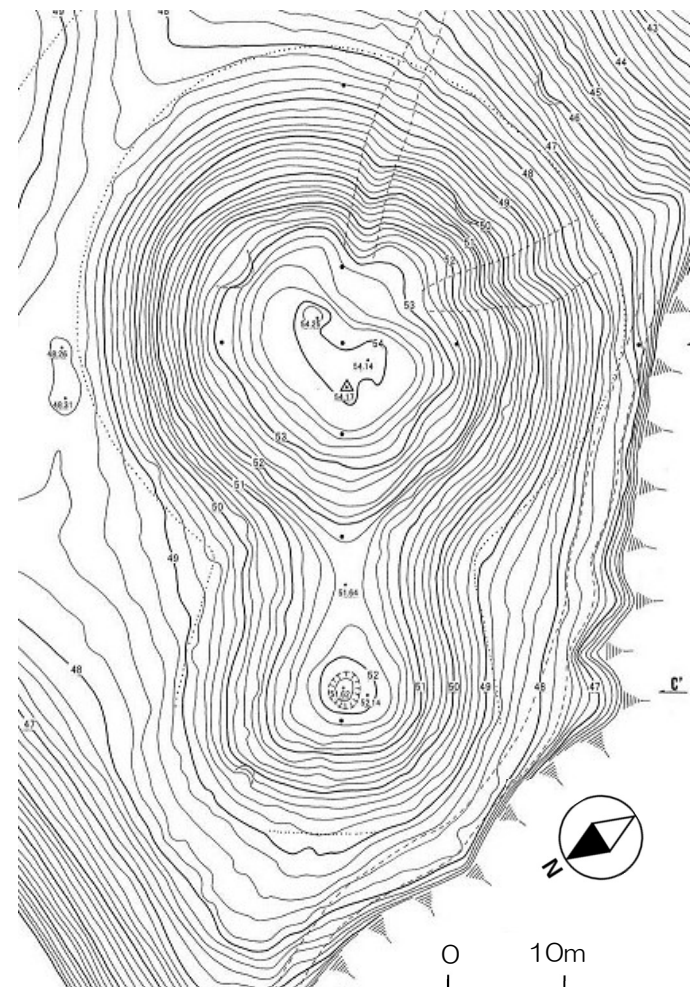
古墳の概要

小独立丘陵頂部（標高 49m）の自然地形を巧みに利用し、当時の交通や物流の大動脈である久慈川とその支流からの視線を強く意識して、丘陵頂部の西縁に築造されています。

墳丘規模については、前方部の短小な前方後円墳で、主軸方向は北西～南東です。主体部は不明ですが、墳丘の遺存状況から未盗掘とみられます。測量・清掃時に多量の底部穿孔壺片（壺形埴輪）が採集されており、壺形埴輪の樹立が想定されます。

周溝は、後円部の東側を中心に幅約 11m、深さ約 1m で遺存しますが、後円部の南側および東くびれ部付近では、自然消滅しています。したがって前方部先端付近から西側面および後円部南側にかけて周溝は巡らず、地山を削り出すことで墳形を画しています。墳丘の西側は地山を削り出し、東側は周溝状に地山を掘削して墳形を整えたとみられます。

築造時期については、採集遺物も少なく、正確な築造時期を絞り込めませんが、墳丘の規模や立地など他の古墳との共通性や類型から推測すると、古墳時代前期後葉頃とみられます。



【中野富士山古墳 墳丘測量図】

DATA

墳丘長	約 70m	前方部幅	31～33m	後円部直径	48m
高さ	5.8m（東側）	前方部長さ	22～24.5m	くびれ部幅	約 22m
	7.0m（南側）	前方部高さ	約 3.0m	後前高差	約 2m



星神社古墳（諏訪山古墳） ほしじんじゃこふん

県指定文化財（平成 18 年 11 月 16 日指定）

基本データ 住所：常陸太田市小島町 757 番地 1 ほか

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	○	×	なし

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（星神社古墳）】市内で一番古い前方後円墳をご紹介します！

古墳の概要

久慈川左岸の支流、山田川と浅川の 2 つの小河川に挟まれた海拔 13m 前後の沖積地上、周囲を水田に囲まれた場所に位置している。後円部の頂上には星宮神社が祀られていることからこの名がつけました。江戸時代に鴨志田家が水戸藩から拝領したことから、拝領山といわれ、諏訪山古墳とも呼ばれています。

全長 100m の前方後円墳で、後円部に比べ前方部が未発達なことや、採集された底部穿孔有段口縁壺の特徴から古墳時代前期前半に造られたものと考えられており、後円部墳頂及び裾部から古備（岡山県）地方でみられる特殊器台形埴輪の系譜を引く器台形円筒埴輪片なども採集されています。

約 650m 南東に離れた全長 151m の前方後円墳の梵天山古墳とほぼ同時期の古墳と考えられ、その関係が注目されています。

【星神社古墳 墳丘測量図】

出典：茂木雅博・田中裕貴『常陸の前方後円墳（2）』
茨城大学人文学部考古学研究室 2005



DATA

墳丘長	100m	主軸	N-80° -E	後円部直径	54m
後円部高さ	8.6m	前方部先端幅	39m	前方部長さ	46m
前方部高さ	2.6m	特徴	直線的な前方部プラン（桜井茶臼山古墳と類似）		



梵天山古墳群 ほんてんやまこふんぐん

県指定文化財（昭和 28 年 7 月 9 指定）

基本データ 住所：常陸太田市島町 2317（宝金剛院）

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	○	○	なし

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（梵天山古墳）】県内第 2 位の大型前方後円墳をご紹介します！

古墳の概要

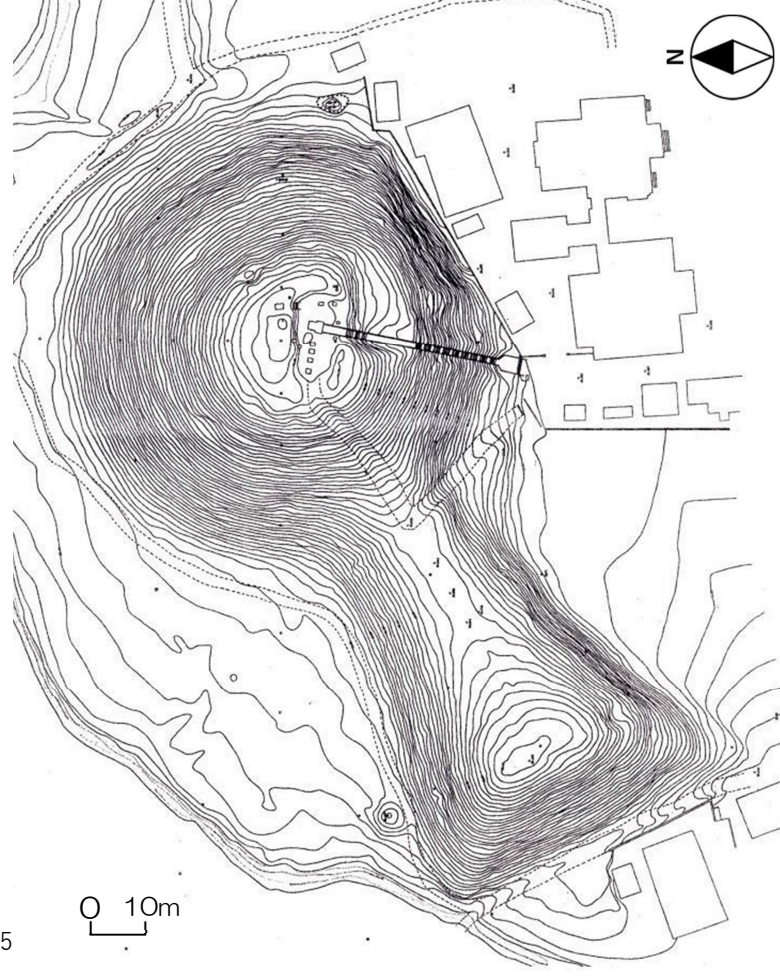
梵天山古墳群は、久慈川と山田川に挟まれた標高 20～25m 前後の台地上にあり、前方後円墳 2 基、円墳 8 基と、「島の百穴」と呼ばれる横穴墓群からなります。

主墳の梵天山古墳は、前方部が後円部に比べ低く未発達であることから、古墳時代前期に造られたものと考えられ、その規模も全長 151m と、古墳時代前期中葉までのうちでは東国最大です。

また、3 号墳の高山塚古墳（古墳時代中期）は、直径 100m の円墳に、直径 30m の円墳がついたようになっています。北東に約 650m 離れた小島町には、全長 100m の前方後円墳である星神社古墳（古墳時代前期）があり、1km の範囲内に、100m 級の古墳が 3 基も存在する稀有な地域です。これらの古墳は、久慈川下流域を支配した豪族達の墓であると考えられています。

【梵天山古墳 墳丘測量図】

出典：茂木雅博・田中裕貴『常陸の前方後円墳（2）』
茨城大学人文学部考古学研究室 2005



DATA

墳丘長	151m	主軸	N-58° -E	後円部直径	100m
後円部高さ	14.3m	前方部先端幅	60m	前方部高さ	9.6m
特徴	撥形な前方部プラン（箸墓古墳と類似）				

集中曝涼 アンケートにご協力ください
こちらから回答可能です→
〔各公開場所の受付でも配布しています〕

